

# うっしっしいー情報2017

9月市



豊岡農業改良普及センター

9月13日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が94万8千円、雌が84万9千円でした。

普及センター調べ（税込価格）  
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤佐	5	0.917	895,536	7	0.811	777,600	12	826,740
篠山	6	0.986	958,680	8	0.856	832,140	14	886,371
丹波	15	0.951	954,576	13	0.853	822,794	28	893,391
朝来	6	0.943	967,140	3	0.893	935,640	9	956,640
播磨	7	1.024	941,760	11	0.852	792,327	18	850,440
美方郡	53	0.971	940,293	41	0.840	885,995	94	916,610
豊岡	13	0.989	971,003	12	0.854	867,060	25	921,110
養父	26	1.004	962,571	18	0.894	877,260	44	927,671
摂津・神戸	2	0.843	879,120	3	0.732	601,560	5	712,584
県北C	2	1.017	902,340	2	0.710	785,160	4	843,750
市場全体	135	0.976	948,088	118	0.848	849,283	253	902,005

# 9月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	芳悠土井	29	1.025	977,139	24	0.878	906,660	53	945,224
2	丸宮土井	24	0.973	978,840	18	0.844	858,960	42	927,463
	総計	135	0.976	948,088	118	0.848	849,283	253	902,005
3	芳山土井	29	0.971	940,010	21	0.839	846,360	50	900,677
4	照忠土井	25	0.952	915,710	28	0.831	852,930	53	882,543
5	千代藤土井	12	0.968	954,720	12	0.856	806,310	24	880,515

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

## ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	芳悠土井	A+	A	A	B	A	A+++
2	丸宮土井	B	B	A+	A++	A+	A++
3	芳山土井	A+	A++	A++	C	A+	A+
4	照忠土井	B	A+++	A	A+	A+++	A+
5	千代藤土井	A	A+++	D	A+	A++	A++

北部農業技術センター提供 (育種価評価は平成29年7月現在)

# 家畜市場取引から見えてくること

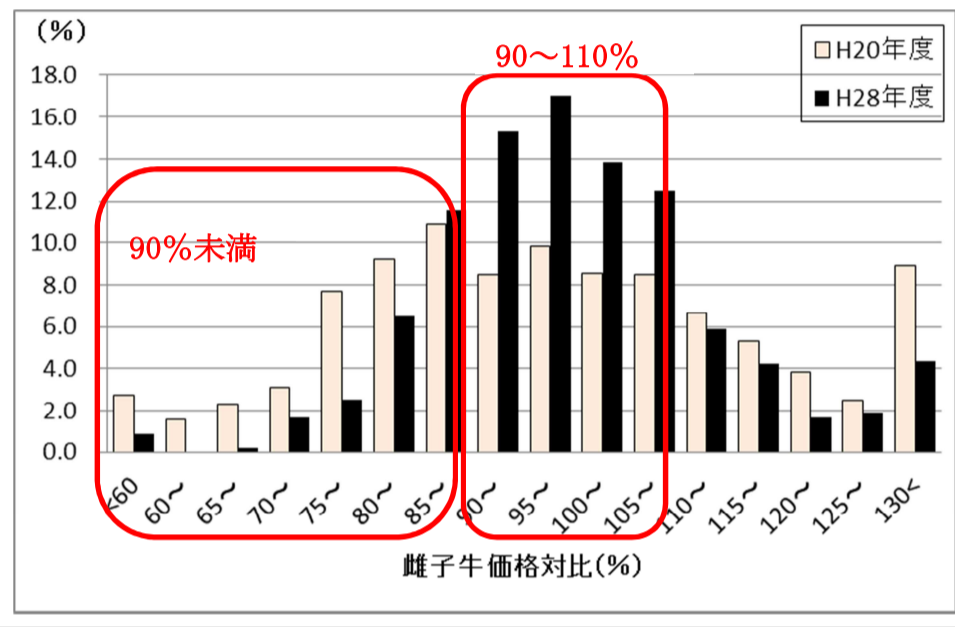
## ～その2～

7月号では、平成20年度（以下、H20年度）と平成28年度（以下、H28年度）の家畜市場名簿を比較分析しました。今月号は、家畜市場取引結果について比較検討をします。分析頭数は、出荷頭数（雄除く、本人落札含む）の3,108頭（H20年度）と2,716頭（H28年度）です。尚、本文中で「**平均価格対比（以下、価格対比）**」という言葉をよく使います。意味は、各月毎の市場の平均価格を100%とした場合、販売価格がそれと比較して何%になっているか、ということです。例えば、7月の雌子牛平均価格は812,283円（税込み）です。Aさんの雌子牛販売価格が892,500円（税込み）とすると平均価格対比は109%になります。この数字を使用して分析することで開催月ごとの平均差を考慮しています。

### 1 価格対比構成頭数はいかに

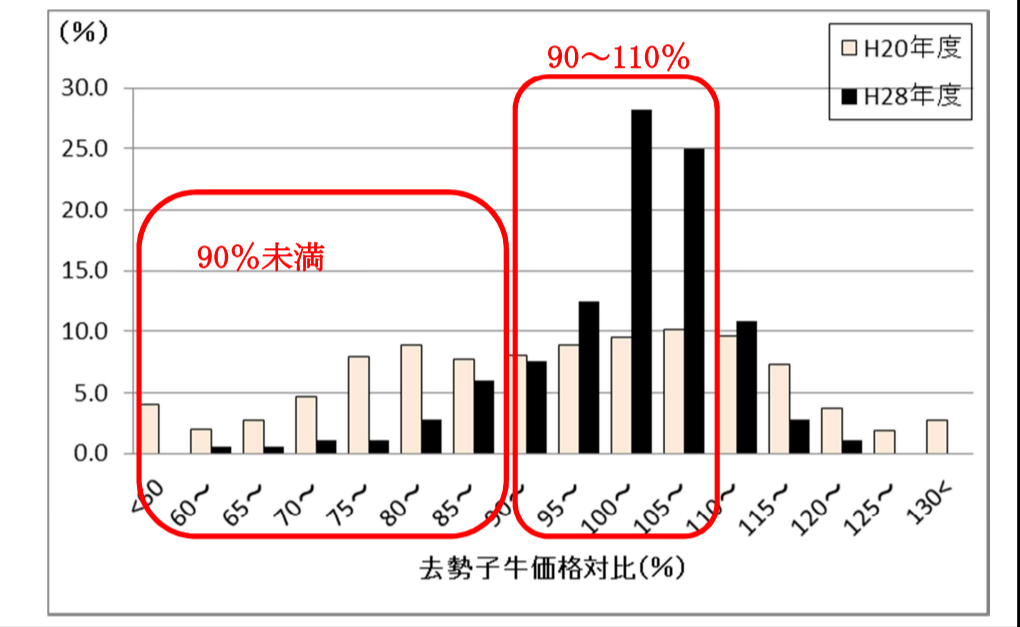
#### ～雌子牛～

H20年度の雌子牛は、価格対比90%以上110%未満の頭数割合が35%であるのに対し、H28年度では、59%を占めており、平均価格の±10%以内に取引頭数が集中していることが分かります。また、価格対比85%未満の頭数割合を見ると、H20年度では、27%と取引頭数の1/4以上を占めていたのに対し、H28年度では12%程度に留まっています。



#### ～去勢子牛～

雌子牛と同様の傾向が顕著に見られ、価格対比90%以上110%未満の頭数割合は、H20年度の36.7%に対し、H28年度では、73.4%と倍増しています。また、85%未満の頭数割合はH20年では38%と4割近くあった頭数割合も、H28年度では12%となっており、雌・去勢とも、堅調な子牛相場に牽引される形で極端な安値取引が減少していることが分かります。



次に価格対比100%以上に占める割合を地域別でみます。

#### (1) 雌子牛

H20年度は、美方郡の61.4%をトップに、他の地域では50%を下回っていました。H28では、丹波を除くほとんどの地域で向上していますが、依然として美方郡以外の地域で50%以下に留まっています（表1）。

#### (2) 去勢子牛

H20年度は、雌子牛と同様の結果で、H28年度は、全ての地域で50%を上回っていました（表1）。そこで次項では、子牛価格に最も大きな影響を与える出荷体重と出荷時の日齢体重（体重/日齢）について地域別に見ます。

### 2 出荷体重と出荷日齢増体重はいかに

#### (1) 出荷体重

雌子牛は、朝来を除く全ての地域において軽くなっており、全体としては4kg減となっています。去勢子牛は、地域によって増減があるものの、全体としては3kg減となっています。特に出荷日齢が短縮（2017年7月号参照）している丹波地域では、雌子牛12kg減、去勢子牛14kg減とその減少幅が大きくなっています（表2）。

#### (2) 出荷日齢増体重

雌子牛は地域により増減はありますが、市場全体では発育改善がされています。去勢子牛については、美方郡を除き全ての地域で発育改善されています（表3）。

雌子牛については、種牛性や発育改善に地域差が見られることから、価格対比に地域差が生じるものと考えられ、去勢子牛については、発育改善による効果が価格対比に直接影響していると考えられます。

表1 価格対比100%以上の割合

地域	雌			去勢		
	H20年度 頭数割合 (%)	H28年度 頭数割合 (%)	増減 ポイント	H20年度 頭数割合 (%)	H28年度 頭数割合 (%)	増減 ポイント
豊岡	31.6	44.1	12.5	36.8	67.8	31.0
養父	33.1	43.1	10.0	40.8	69.5	28.7
朝来	23.2	30.6	7.4	34.5	72.9	38.4
美方郡	61.4	61.6	0.2	59.0	68.4	9.4
丹波	44.5	37.7	-6.8	41.4	57.4	16.0
篠山	12.5	35.0	22.5	38.2	53.1	14.9

表2 出荷体重の変化

単位：kg

地域	雌			去勢		
	H20年度	H28年度	増減	H20年度	H28年度	増減
全体	232	228	-4↓	252	249	-3↓
豊岡	234	229	-5↓	248	252	4↑
養父	231	225	-6↓	260	254	-6↓
朝来	225	228	3↑	243	244	-1↓
美方郡	231	230	-1↓	248	251	3↑
丹波	236	224	-12↓	259	245	-14↓
篠山	225	224	-1↓	241	245	4↑

表3 出荷日齢増体重の変化

単位：kg/日

地域	雌			去勢		
	H20年度	H28年度	増減	H20年度	H28年度	増減
全体	0.849	0.856	↑	0.958	0.963	↑
豊岡	0.841	0.835	↓	0.937	0.980	↑
養父	0.839	0.880	↑	0.976	0.987	↑
朝来	0.821	0.840	↑	0.930	0.950	↑
美方郡	0.869	0.866	↓	0.974	0.974	→
丹波	0.848	0.864	↑	0.956	0.960	↑
篠山	0.842	0.818	↓	0.953	0.957	↑

\* 網掛け太字平均値以上

子牛販売価格は、肉用牛経営を取り巻く環境変化に伴い高騰していますが、この8年間で子牛の発育改善や購買者からの要望である出荷日齢の早期化が図られています。しかし、最近またもや子牛の過肥について囁やかかれてきているため、発育改善しているのか過肥なのか地域毎に注意が必要です。更なる適切な管理に努めて下さい。